

## 設立 20 周年記念第 18 回講習会（現地対面開催+後日配信）

# 緩和ケア領域における音楽療法士のあり方 過去から未来へ ～20 年たっても変わらないこと・変わったこと～

### 【第 18 回講習会について】

第 18 回講習会は ELC-MT 設立 20 周年記念講習会となります。

今回は、終末期緩和ケア領域でご家族からのご依頼があり厳しい現実を見つめつつも利用者さんたちの希望に添って見送れたケースと、音楽療法に深く関わりがあるケアプランナーとして長年の臨床経験があったにも関わらず、患者さんが自宅で亡くなりたいたいという希望をかなえることができなかったケースの二つを中心に、ディスカッションや音楽を実際に使ったりして受講者の皆さんと学んでいくことにいたしました。

コロナ禍以降も、私たちは痛みや苦しみを抱えている人たちに寄り添い、さらに厳しい臨床の現場で生きていかなければなりませんので、対面での音楽療法の特徴を活かすために、音楽をより多く用いた体験型のワークショップや、率直に意見を出し合い参加者同士や自分自身と正面から向き合えるようなディスカッションを計画しています。

**日 時：** 2025 年 3 月 15 日（土）12:00 から 3 月 16 日（日）14:15 まで

**会 場：** 桜町病院 聖ヨハネホスピス 2 階 研修室（東京都武蔵小金井市）

**講習対象者：** 音楽療法士、終末期・緩和ケアに携わる医療及び福祉関係者、  
終末期・緩和ケアの音楽療法に関心がある方

**受講料：** 一日参加 8,000 円 両日参加 12,000 円 懇親会参加費 6,500 円

**募集定員：** 30名（オンデマンドは人数制限なし）

**申込み締切：** 2025 年 2 月 17 日

**主催：** 日本終末期・緩和ケア臨床音楽療法士連絡会

【事務局】 〒204-0011 東京都清瀬市下清戸 4-709-17 「みどりの樹清瀬」ホーム長：北川美歩

【講習会に関する連絡先】 aki.niikura@gmail.com 090-9321-3056 担当：新倉晶子

## ELC-MT主催 ELC-MT設立20周年記念 第18回講習会のご案内

- 1.主 催：日本終末期・緩和ケア臨床音楽療法士連絡会
- 2.講習対象者：音楽療法士、終末期・緩和ケアに携わる医療及び福祉関係者、  
終末期・緩和ケアの音楽療法に関心がある方
- 3.日 時：2025年3月15日（土）12:00から 3月16日（日）14:15まで
- 4.会 場：桜町病院 聖ヨハネホスピス 2階研修室  
(東京都武蔵小金井市)
- 5.講 師：杉谷 麻里（日本赤十字社医療センター 公認心理師）  
新倉 晶子（日本赤十字社医療センター 音楽療法士）  
三枝 好幸（社会福祉法人 聖ヨハネ会 桜町病院 ホスピス科部長）
- 6.ファシリテーター：米倉 裕子（総合病院山口赤十字病院）  
新倉 晶子（日本赤十字社医療センター）  
市田 幸子（順天堂大学練馬病院小児科）  
小田切佳仁（どちペインクリニック玉穂ふれあい診療所）
- 7.座 長：石川 麗子（日本財団在宅看護センター街のイスキア訪問ナースステーション）  
永野 裕見子（居宅訪問型児童発達支援 おうち cotton）
- 8.総合司会：鏑木 陽子（社会福祉法人 聖ヨハネ会 ホスピス研究所）
- 9.受講料：一日参加 8,000円 両日参加 12,000円 懇親会参加費 6,500円
- 10.募集定員：30名（オンデマンドは人数制限なし）
- 11.申込み締切：2025年2月17日

全体テーマ【緩和ケア領域における音楽療法士のあり方 過去から未来へ  
～20年たっても変わらないこと・変わったこと～】

2025年3月15日（土）／受付11:30～

11:30～	講習会受付開始	
12:00～12:50	開会挨拶・自己紹介 ELC-MT設立20年の歴史配布	総合司会 鏑木 陽子
13:00～14:00	事例検討 ～Aさんとの出会いとお別れについて、 あらためて振り返る～	座長 石川 麗子 発表 実松 美奈子
14:10～15:40	事例検討をもとにディスカッション ～音楽療法士のあり方、そして自分を振り返る～	ファシリテーター 米倉 裕子 新倉 晶子
15:50～16:50	音楽療法士と心理師の化学反応 ～異同と協働～	講師 杉谷 麻里
17:00～17:30	今まで継続できた原動力とは何か ～経験を語る～	講師 新倉 晶子
18:30～20:30	懇親会 割烹 真澄	武蔵小金井駅 徒歩2分

2025年3月16日(日)

9:00～10:00	事例報告 ～在宅療養の限界を超えた先へ バトンをつなぐ緩和ケアセカンドステージ～	座長 永野 裕見子 発表 古川 慎二
10:10～11:40	ディスカッション ～あなたはあなたの地域やチームで連携を取れていますか～	ファシリテーター 市田 幸子 小田切 佳仁
11:40～12:25	ランチタイム	ホスピス研究所
12:25～13:25	講義 ケアリングマインド ～悲嘆のケアを中心に～	講師 三枝 好幸
13:35～14:05	あなたを なかまとともに 支える音楽を やってみよう	ファシリテーター 新倉 晶子
14:05～14:15	閉会挨拶	鍋木陽子 新倉晶子

## 【申込み方法】

- ① 連絡会事務局宛に参加申込書をメールか郵送で申し込みください。

### 【事務局】

〒204-0011 東京都清瀬市下清戸 4-709-17 「みどりの樹 清瀬」 ホーム長：北川美歩

### 【講習会に関する連絡先】

MAIL: aki.niikura@gmail.com 電話: 090-9321-3056 担当: 新倉晶子

- ② 申し込み締め切り日までに、下記指定口座に受講料をお支払ください。

【振込先】郵便振替口座番号:記号 10140 番号 88895511 手数料はお支払い下さい。

【振込先名義】日本終末期・緩和ケア臨床音楽療法士連絡会

他金融機関からの振り込み受取口座は次の通りです。手数料はお支払い下さい。

ゆうちょ銀行【店名】〇一八(ゼロイチハチ) 【預金種目】普通 【口座番号】8889551

(ア) 申込締切日を過ぎた場合は、事務局へお問い合わせください。

(イ) 受講料振込後のキャンセルには、一切返金できませんのでご注意ください。

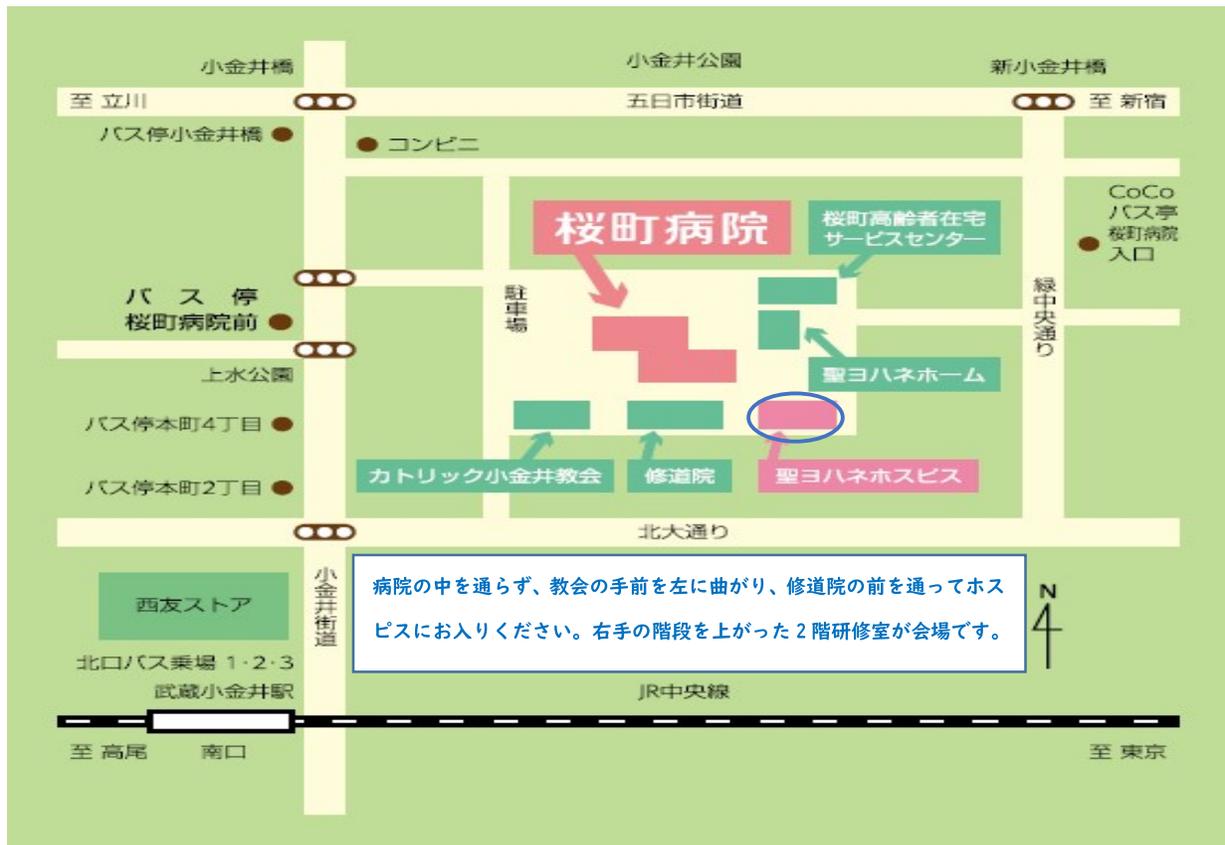
(ウ) 本講習会は日本音楽療法学会認定講習会です。ポイントは取得できる予定です。

【会場案内図】

会 場：桜町病院 聖ヨハネホスピス 2階研修室

アクセス：JR 中央線「武蔵小金井駅」北口下車(徒歩約 15 分)

バ ス：武蔵小金井から西武バス 1・2・3 番のバスに乗車、「桜町病院」下車 徒歩約 3 分  
 または小金井市コミュニティーバス(CoCo バス)「桜町病院入口」下車徒歩約 5 分



新宿<JR 中央線> → 吉祥寺 → 三鷹 → 武蔵境 → 東小金井 → 武蔵小金井 → 至立川・高尾  
 (講習会会場最寄り駅)

【宿泊案内】 この近辺は大学が多くありますので、3月は受験時期のためホテルが予約しにくくなります。  
 宿泊予約は早めにするをお勧めします。

	施設名	TEL	アクセス
1	ホテルメッツ武蔵境	0422-32-5111	武蔵境駅南口より徒歩 1 分
2	シティホテル武蔵境	0422-33-5111	武蔵境駅南口より徒歩 1 分
3	リッチモンドホテル東京武蔵野	0422-36-0022	三鷹駅北口より徒歩 7 分
4	三鷹シティホテル	0422-48-4111	三鷹駅より徒歩 5 分
5	吉祥寺 東急 REI ホテル	0422-47-0109	吉祥寺駅より徒歩 1 分

# 講習会申込書

申込日 年 月 日

該当箇所を記載、あるいはチェックしてください。

ふりがな 氏名	所属
住所 (自宅・勤務先) 〒 -	
TEL(自宅・勤務先)	携帯番号
MAIL(申込受付はメールで行います)	

	希望	金額
講習会	<input type="checkbox"/> 二日間とも	<input type="checkbox"/> 12,000 円
	<input type="checkbox"/> 一日目のみ	<input type="checkbox"/> 8,000 円(どちらか一日のみ)
	<input type="checkbox"/> 二日目のみ	
懇親会	<input type="checkbox"/> 参加 <input type="checkbox"/> 不参加	<input type="checkbox"/> 参加の方は +6,500 円
	合計金額をご記入ください。	円

当日、講習会運営スタッフを募集しています！

ご協力いただける方は、希望する係に○をつけてください。(複数可)

何でも良い 受付係 茶菓係 記録係 司会 懇親会幹事

2025 年 1 月 吉日

会員および当連絡会に関心をお持ちの皆さまへ

日本終末期・緩和ケア臨床音楽療法士連絡会(略称:ELC-MT)主催

## 設立 20 周年記念 第 18 回講習会(現地対面開催＋後日配信)のご案内

臘梅の花が咲く頃、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

昨年の 2024 年は「なぜ同じ人間なのに血を流し合わなければならぬのか」と目を覆いたくなるようなウクライナ紛争やイスラエル・ハマス衝突などはさらに激化し、また日本だけではなく世界中で天災に見舞われ、日々の生活もままならないなかでの生活を強いられている人々は数知れません。

その反面、日本では新型コロナウイルス感染症が一昨年 5 類感染症へ移行したこともあり、観光地は海外から観光に訪れる人々であふれ、街は華やいています。四年ぶりに行動規制がないのですから、人々は生活を楽しむことができるようになりました。しかし、新型コロナウイルス感染症はなくなったわけではなく、感染対策が緩んだ分、より身近な感染症となりました。さらにインフルエンザやマイコプラズマ肺炎の流行など、感染症との戦いはまだまだ続いています。今年私たちの日常に、希望や生きる喜びはどれほど戻ってきたのでしょうか。

さらに、世界の社会情勢は対立が強まり、いつ戦争が世界中に広がってもおかしくない瀬戸際の状況になっていることを誰でもが感じ取り、不安を抱いている方も多いのではないかと思います。

### 【医療・福祉に携わる人が存在する意味】

「白衣の天使」という言葉の象徴であるナイチンゲールは、フィレンツェのかなり裕福な家に生まれましたが、17 歳の時に貧しい人々への奉仕に目覚めます。彼女はのちに、「天使とは、美しい花をまき散らす者でなく、苦悩する者のために戦う者である」という言葉を残しています。彼女が 34 歳の時勃発したクリミア戦争では、38 人の看護師を連れてクリミアへ渡り、野戦病院での負傷兵の死亡率を 42%からわずか 5%に減少させました。私たちがいきなり戦場に出向くことは現実的ではありませんが、普段携わっている場所においても、病や障がいによって死と隣り合わせの方たちがたくさんいます。

私たちは医療や福祉に携わる者ですから、たとえ私たちにとって価値観の違いや対立している環境に居る人々であっても、病などに苦しんでいる人や家族に真摯に向き合い、ケアを行っていくことが、私たちがなすべきことだと思います。

そして何よりも私たちの使命は、傍らにいる全人的痛みを苦悩している人に、その人が大切にしている生きざまを尊重し、寄り添おうとしていくことです。ときには何もできなさと感じて無力感に陥ってしまうこともあるかもしれませんが、寄り添おうとして近づいていくことはできるのではないのでしょうか。

### 【ELC-MT を設立した理由】

日本終末期・緩和ケア臨床音楽療法士連絡会(ELC-MT)は 2005 年 4 月に日本における終末期・緩和ケアでの音楽療法の発展と情報交換を目的に設立し、現在約 30 名の音楽療法士と医療・福祉に携わっている方々が会員の大変小さな規模の会です。

当連絡会はホスピス・がん緩和ケア領域に限らず、高齢者や小児、神経難病などの領域で終末期の緩和ケアを専門職として行っている音楽療法士を中心にした医師、看護師、栄養士、ケアプラン

ナーなどの多職種の人たちと活動している連絡会です。

それぞれの領域で終末期・緩和ケアの患者さんやご家族、また死別後のご家族に寄り添うなかで、いのちに向き合うことの重みを感じつつ、ケアの提供者や音楽療法士としての在り様を自問自答しながら、各自が日々実践を行っています。

ELC-MT が主催している当講習会は 2007 年より、東日本大震災と 2019 年のコロナ禍のとき中止になったのを除き毎年 1 回 3 月に開催しておりましたが、昨年 5 月には清里で第 17 回講習会を 4 年ぶりの対面で開催いたしました。今年は 3 月 15(土)、16 日(日)に東京の桜町病院で第 18 回講習会を対面で開催いたします。また後日、講習会のオンデマンド配信も予定しています。

そして大変うれしいことに皆さまのご厚意と温かい支えのおかげで、今年の 4 月に本連絡会開設 20 周年を迎えることができそうです。この場をお借りし、皆さまに改めて御礼申し上げます。

### 【いま、私たちはどうあるべきか?】

さて、延命を中心にした医療が行なわれ癌末期患者が苦しみながら死を迎えるという、それまでの医療に対する反省・反発から、緩和ケアは苦痛の緩和と生命の質の向上を目指して世界に広がっていったという歴史があります。

従来の医療では、多くの人々が病院で機械に管理され、自由を奪われて、その人らしさを発揮できないまま死を迎えていたため、緩和ケアはできるだけ管理の壁を取り払って、患者中心のケアを心がけ、その人がその人らしい生を全うできるように援助することを目指して歩んできました。

確かにここ 20~30 年の間に、緩和医療は格段の発展を遂げてきましたし、症状コントロールの質はずいぶんよくなっていると思います。しかし、医療はエビデンス（科学的根拠）が常に求められ、ナラティブな部分にあまり触れられていないと感じます。そうすると、「患者ファースト」を掲げている病院がたくさんあっても、現場は医療が中心となり、患者さんの痛みの評価も全人的には行えず、結局患者さん中心にならないということになりかねないわけです。

病を抱えて生きている人は治療をしているのですから、医療の専門家たちの方針に従わなければならないという現実があります。また病に罹っている人たちは治りたいと願っていますから、医療に携わっている人たちの言葉に従わなければならないと自分の思いを出さずに堪えて頑張っています。

もちろん、残された人生をどう生きたいか、しっかりと意思表示できる人もいらっしゃいますが、多くはありません。人それぞれの価値観を重視した医療や福祉のあり方を、ケアを提供する側が意識して取り組まないと、患者さんやご家族に全人的ケアを届けることができません。

このことは音楽療法でも同様で、音楽療法士の一方的な思いでセッションを行うことは以前から認められてはいませんでしたが、従来以上に患者さんやご入居者さん、ご家族などの思いをより尊重していかなければならない時代になってきたのではないかと、私たちは現場での臨床から感じています。緩和ケアに限らず、また職種が違ったとしても、臨床現場にいる多くの方たちが同じように感じていらっしゃると思います。

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行した現在は、「感染症共存時代」ともいえる社会に突入している現実を受け止める必要があります。新型コロナウイルス感染症拡大時には、感染予防の観点から個別セッションが制限されたり、歌が歌えなかったり、対象者との距離をあえて遠くにしたりということ余儀なくされていきました。今も感染症がなくなっていない以上、全く同

じに戻すことはできないかもしれませんが、であるならばなおのこと、個人を尊重し自他ともに「今を生きている」「一人ではない」と感じられるような音楽療法の根源をより一層追求していけるように、日々の臨床に臨んでいかなければならないと私たちは考えております。

### 【ELC-MT が目指すもの】

一人ではできないことでも、仲間がいて悩み・悲しみ・苦しみ・憤り、そして喜び・和やか・笑いなどをともに分かち合えることができれば、また明日も頑張ってみようという力が湧いてくるのではないのでしょうか。そのような場として、ELC-MT はあり続けていきたいと考えています。

### 【第 18 回講習会について】

来年の第 18 回講習会は ELC-MT 設立 20 周年記念講習会となります。

今回は、終末期緩和ケア領域でご家族からのご依頼があり、厳しい現実を見つめつつも利用者さんたちの希望に添って見送れたケースと、医療コーディネーターとして長年の臨床経験があったにも関わらず、患者さんが自宅で亡くなりたいという希望をかなえることができなかったケースの二つを中心に、ディスカッションや音楽を実際に使ったりして受講者の皆さんと学んでいくことにいたしました。

コロナ禍以降も、私たちは痛みや苦しみを抱えている人たちに寄り添い、さらに厳しい臨床の現場で生きていかなければなりませんので、対面での音楽療法の特徴を活かすために、音楽をより多く用いた体験型のワークショップや、率直に意見を出し合い参加者同士や自分自身と正面から向き合えるようなディスカッションを計画しています。

2 日間に亘りますが、泊まり込みではございません。近隣のホテルなどはご自身で手配をお願いいたします。

### 全体テーマ

緩和ケア領域における音楽療法士のあり方 過去から未来へ  
～20 年たっても変わらないこと・変わったこと～

日程：2025 年 3 月 15 日(土)12:00～翌 16 日(日)14:15

会費：1 日参加 8,000 円 2 日参加 12,000 円 懇親会 6,500 円

講習会ご案内の詳細につきましては、別添付資料をご参照ください。

皆さまのご健康を願いつつ、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

日本終末期・緩和ケア臨床音楽療法士連絡会 代表 新倉晶子